



ふたば

自主・努力・感謝

Nagano Prefecural
Suwa Futaba Senior High School

令和2年4月26日発行

会報
第36号

●題字/客員 今井清水先生(高女30回)
●発行/長野県諏訪二葉高等学校 同窓会
諏訪市岡村2-13-28 TEL・FAX0266-52-9595
URL▶http://www.suwafutaba.org



魂の永久のふるさと

長野県諏訪二葉高等学校 同窓会

会長 岸

昌代(高校26回)

同窓生の皆様におかれましては、ご清祥の事とお慶び申し上げます。平素は同窓会活動にご支援ご協力を賜り、心から感謝と御礼を申し上げます。

全国至る所で大きな災害が発生し、その地に同窓生が在らん事を願いつつ、被災地の一日も早い復興を祈らずにはいられます。

せん。顧みますと果たして会長職が全うできるのだろうかと思不安な気持ちでのスタートでしたが、四十五年ぶりに懐かしい校歌をうたい、清々しく心洗われる思いを覚え、二年間母校に尽くす決意をいたしました。幸いながら「二葉愛」「二葉力」いっぱい理事の皆様、その

して本部役員とともにワンチームの二年間であったと思えます。先輩方が築いてこられた良き伝統が脈々と流れる二葉の同窓会、その中にあるその本流に沿いながら、新しい同窓会の形も模索しつつ活動してまいりました。

会員の皆様といるいろいろな事を一緒にすることで、二葉の教育目標であります「自主・努力・感謝」の精神が人生の礎となり、二葉の歴史は同窓生の誇り、まさしく「魂の永久のふるさと」であることをひしひしと感じております。

この歴史をさらに紡いで母校を支援するとともに、会員の素晴らしい交流の場として発展していくことを願ってやみません。昨今においては少子化による高校再編の課題が浮上しておりますが、これからの地域の高校教育、そして二葉の未来に力を尽くして下さる伊藤文様に、次を託すことができることをうれしく思います。

会長退任後も、同窓会員として皆様とともに、母校と同窓会発展のため、力を尽くす所存でございます。

最後になりましたが、校長先生をはじめ、諸先生方のお力を借りて任期を全うできました。皆様、ありがとうございます。



誠実と感謝を胸に

長野県諏訪二葉高等学校 同窓会

次期会長 伊藤

文(高校27回)

同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝で活躍のこととお慶び申し上げます。平素より同窓会活動に格別のご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

度度会長としてご承認をいただき、岸会長の後を受けて会長職を務めさせていただくこととなりました。

明治34年、上諏訪町尋常小学校に附設された諏訪補習女学校から始まり、上諏訪町立諏訪高等学校、長野県立諏訪高等学校、現

在地に移転してからの長野県諏訪高等学校、そして新制高校として長野県諏訪二葉高等学校と、その名を変えながら百十二年の長きにわたり、ここ諏訪の地で多くの人材を育ててきた諏訪二葉高校と同窓会の歴史や伝統を思い出すと、その重

貴に身が引き締まります。しかし、微力な私でございますが、母校と同窓会の発展のため、本部役員、理事をはじめとする同窓会会員の皆様の力をお借りしながら誠実に、そして感謝の気持ちをもつて働いてまいります。

いま、長野県では「すべての生徒が自ら夢を見つけ、夢に挑戦する学び」を目指した高校のあり方が検討され、諏訪二葉高校においては教育目標「自主・努力・感謝」

さて、この度の第86回定期総会において、令和2、3年

野県立諏訪高等学校、現

伝統を思い出すと、その重

教育目標「自主・努力・感謝」



二葉に赴任して

長野県諏訪二葉高等学校

校長 守屋 郁男

令和元年の秋、台風19号の豪雨により、県内では千曲川流域を中心に多大なる被害が生じ、今も大変な状況が続いています。この場をお借りしまして被災者の皆様

に心よりお見舞い申し上げます。同窓生の皆様におかれましては、日頃から母校生徒の学びのため、物心両面にわたり温かいご支援を賜っておりますことに厚く御礼申

上げます。私事でございますが、赴任以来2年にわたり、ご指導、ご鞭撻いただいておりますことに深く感謝申し上げます。歴史と伝統のある、地域の皆さまからの期待も大きいこの諏訪二葉、私にとっても昔からのあこがれ、そこに勤務することは、大変光栄に感じるとともに、身の引き締まる思いで一生懸命尽力していく所存です。私は31回

生の方達と同期ですので残り11カ月と少しで退職となります。あと少しのお付き合いになるかと思いますが、今後ともどうぞよろしく願っています。

さて、同窓会からは毎年教育支援金をいただき、特に昨年の創立百十年記念に多額の教育環境整備金もいただき、誠にありがとうございます。この2年間で北校舎網戸の設置、1L教室の修繕、テールや可搬式電子黒板などを購入。さらに、生徒達の活動に悪影響を与えていた北校舎普通教室のストーブをFFファンヒーターに換えました。お陰様で寒い中でも、生

徒達は意欲的に学習に取り組むことができるようになりました。重ねて感謝申し上げます。



二葉生に願うこと

長野県諏訪二葉高等学校

教頭 山岡 久俊

同窓会の皆様方には、日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。今年度より教頭としてお世話になっております。

昨年、台風による豪雨により、県内外で甚大な被害が発生し、現在も不自由な生活を送られている方がいらっしやいます。被災された皆様に心よりお見舞

い申し上げます。さて、現代社会ではAI(人工知能)が種々の分野で取り入れられてきています。AIと一言前までのロボットとは大きく異なります。ロボットは、プログラムされた情報以外のことに対しては、対応することができないのに対し、AIは自ら考える力が備わっているため、一度作動させてしま

えば、人間の手を離れても自発的に発展(成長)していきます。囲碁やチェスの世界においても名人に勝ったり、医療分野でも画像診断で見逃しがちな特殊な異常についても検知することが可能になってきています。無人車の自動運転システムもAIによるものです。AIに日々の宿泊費を決めさせ、収益を上げているホテルがあることも報道されています。体験を積み重ねるほど、情報が多ければ多いほど、より早くより高度に成長を続けるのがAIです。

しかし、コミュニケーションを必要とすることや前例のない問題にどう対応していくか、多岐にわたる諸問題を総合的に判断し対応していくか等がAIの苦手分野だそうです。

私の高校生活においては、スマホなど無い時代です。手紙を書くか直接話をしなければ、自分の考えを相手に伝えることはできません。友人と遊ぶためには事前に計画を立て連絡をしておかなければ何もできませんでした。今思えば、必然とはいえコミュニケーション力は高まり、計画性を養うことで危険やリスクを想定し対応する力が付いてきたのかもしれない。



どんな時代であつても、人に求められるスキルは変わらないのかもしれない。新学習指導要領では、知識や技能の習得だけでなく、思考力、判断力、表現力等の習得が謳われ、道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体の育成も目指すとなっております。

近い将来、こんな光景を目にしないことを願っています。

高校生「私どうすればいい?」

スマホ「○○○○してください」

高校生「そうする。ありがと」

「たくさんの方が楽しめる二葉祭を創る」というのは、就任当初の自分が登るには、高すぎる『山』だった。

そもそも楽しいという感覚は、人それぞれ違うはずなのに、そんなことを自分が代表して考えていいのだろうか。判断していいのだろうか。不安で仕方がなかった。だから役員同士でたくさ



「山登り」

二葉祭実行委員長

小口 紗季

ん話し合ったり、全校生徒にアンケートを取ったりして多くの意見を得た。

それでも『山』を登りきれなかった。なぜなのかわからないまま、時間だけが過ぎる日々が続く。焦れば焦るほど『山』は、自分の前に高くそびえ立つ気がした。そんな中、自分を変えてくれたのは、副委員長をはじめとする周



りの仲間達だった。『山』は、一人で登ろうとするものではない、今のままではいけないと教えてくれた。思い返せば、私は全部一人で判断しようとしていた。それでいて一人で焦っていたのだ。それからは考えを改めて活動した。先生方や生徒会役員そして自分の

部活仲間にも協力をお願いした。気が付くと『山』の頂上が目の前にあった。登頂出来たかどうかは、正確には分からない。だが、二葉祭を終えたいま、山登りは一人だけの力で出来るものではないと私は強く思う。



二葉という「青春」

生徒会長

原田 芽依

この原稿を書いているのは12月末、残り少ない二葉生活を噛みしめています。私はこの学校が本当に好きで、一年間の生徒会活動を「全校の皆さんにも二葉に入って良かったと思うしてほしい」。そんな想いでやってきました。

生徒会には期待と楽しみ、また、同じだけの不安と

プレッシャーがありました。しかし、いざ始まってみるとやりがいと充実した日々で不安は消えていきました。もちろん、楽しいだけではありません。うまく形にできないもどかしさ、役員同士のいざこざ……。だからこそ、みんなでその悩みを乗り越えていく嬉しさ、達成感、団結力を実感することができたのだと感じています。



二葉の生徒会長を務められたことは、私の青春のすべてであり、誇りであり、これからの武器だと

思っています。全ての人に感謝しています。ありがとうございます。



現代音楽部リーダー 川上 真里奈

『近日公開』というバンドは、1年生の12月にそれぞれ別のバンドで活動していた4人で、今の活動に加え、更にバンドをや

りたいという思いで結成しました。

2年生の夏からオリジナル曲「鱗リフレクション」の制作を始め、翌年5月の中南信大会に向けて試行錯誤を繰り返してきました。大会初出場となった中南信大会、結果は56組中第1位。誰も予想していなかった結果に本当に驚き、同時に今まで味わったことの無い喜びを感じました。そして初の全国大会出場という大きな目標が見えました。

生徒会役員として、文化祭までの怒涛の日々が過ぎ7月の県大会、結果は51組中第1位で全国大会出場を掴むことが出来ました。感動で涙が止まらなかったのを覚えています。

それから全国大会に向け、より深く歌詞の世界観を表現するために演奏だけでなく表情や目線、ステージの使い方にまでこだわり「私達らしさ」を追求してきました。

いよいよ迎えた全国大会、直前までの緊張が嘘のように私達らしく、何より楽しんで演奏することができました。賞をとることはできませんでしたが、4人で掴みとった大きなステージから見た景色は、忘れられないものになりました。2年間、純粋に楽曲や仲間と向き合い、かけがえのない絆、経験を得ることが出来ました。

最後に、応援してくださった同窓会の皆様、地域の皆様、先生方に感謝申し上げるとともに、今後も現代音楽部に変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

活躍する二葉生の足跡



令和元年度クラブ大会結果

(北信越大会以上を抜粋)

【陸上・男子】

□北信越高校総体□

- ・小口伸太郎 走り高跳び
- ・永田 智哉 砲丸投げ 9位

□北信越高校新人大会□

- ・永田 智哉 砲丸投げ

【陸上・女子】

□北信越高校総体□

- ・平出 藍未 1500m
- ・平出 藍未 3000m 7位
- ・佐藤 千晶 3000m 13位
- ・小林 千紘 走り幅跳び

□北信越高校新人大会□

- ・高野 夏来 1500m 7位
- ・小林 千紘 走り幅跳び
- ・北原 小遥 三段跳び

【卓球・男子】

□北信越高校新人大会□

- ・高橋 叶多 シングルス

【水泳・男子】

□北信越高校総体□

- ・小林 幸誠 100m自由形 15位
- ・小林 幸誠 200m自由形 8位
- ・濱 歩真 1500m自由形 21位
- ・矢島 亮介 100m背泳ぎ 17位
- ・矢島 亮介 200m背泳ぎ 17位
- ・金子 陽向 100m背泳ぎ 27位

【新体操】

□北信越高校総体□

- ・団体 6位

【スケート・女子】

□全国高校総体□

- ・宮澤 茉那 1000m 8位
 - ・チームバシュート 6位
- (宮澤里緒、宮澤茉那、牛山莉奈)

【硬式テニス・男子】

□北信越高校新人大会□

- ・団体出場

【音楽部】

□第43回全国高校総合文化祭□

- ・合唱部門奨励賞

【現代音楽部】

□全国高校軽音楽コンテスト□

- ・全国大会出場

【JRC同好会】

□第43回全国高校総合文化祭□

- ・ボランティア部門参加 (永田光、山田美和)
- 青少年赤十字スタディセンター□
- ・山田美和参加

平成30年度クラブ大会結果

(北信越大会以上を抜粋)

【陸上・男子】

□北信越高校総体□

- ・鈴木 颯太 800m
 - ・鈴木 稜哉 1500m 12位
 - ・雨宮 海斗 110mH
 - ・松本 陸 走幅跳び 9位
- 北信越高校新人大会□
- ・永田 智哉 砲丸投げ 7位

【陸上・女子】

□北信越高校総体□

- ・宮澤 歩 100m 4位
 - ・宮澤 歩 三段跳び 3位
 - ・佐藤 千晶 3000m 18位
 - ・中島 瑠衣 準決勝進出
 - ・4×100mリレー
- (伊藤 桃香、宮澤 歩、中島 瑠衣、宮坂 育)

・高校駅伝 9位

□全国高校総体□

- ・宮澤 歩 三段跳び 4位

□北信越高校新人大会□

- ・平出 藍未 1500m 3位
- ・平出 藍未 3000m 3位
- ・佐藤 千晶 1500m 6位
- ・佐藤 千晶 3000m 4位

□第73回国体(福井)□

- ・宮澤 歩 100m
 - ・宮澤 歩 三段跳び 4位
- ジュニア室内大会□
- ・宮澤 歩 三段跳び

【弓道・男子】

□北信越高校総体□

- ・団体出場

【水泳・男子】

□北信越高校総体□

- ・小林 想 100m自由形
- ・橋原 優剛 1500m自由形
- ・濱 歩真 100m自由形
- ・小林 幸誠 200m背泳ぎ

【新体操】

□北信越高校総体□

- ・団体6位

□全国高校選抜大会□

- ・団体出場

【スケート・女子】

□全国高校総体□

- ・宮澤 茉那 500m 13位
- ・宮澤 茉那 1000m 13位
- ・宮澤 里緒 1000m 16位
- ・宮澤 里緒 3000m 21位
- ・牛山 莉奈 500m 23位
- ・牛山 莉奈 3000m 32位
- ・チームバシュート 3位

県高校総体には以下のクラブ、個人が
出場しています(上記も含む)。男子
サッカー/女子サッカー/男子テニス/
女子テニス/ソフトテニス/男子バドミ
ントン/女子バドミントン/弓道/陸上/
卓球/新体操/水泳/野球/少林寺拳法

生徒作品



平成29～令和元年度の 進路状況について

進路指導主事

馬場 美江子

この三年間は大規模私立大学の定員厳格化により、まず、都会の私立大学の入試が難化し、それが今年度は地方の私立大学にも影響が及び始めました。そのため、一人当たりの受験校が増える、補欠合格が多く出るなど、家庭の負担も増した三年間でした。

また、今年度は、センター試験最後の年でした。入試制度が大きく変わるため、本校でも数年前から、英語の外部検定を学年全員で受験したり、記述式解答に対応するための授業改革など取り組んできました。が、「英語外部検定」「国語・数学の記述式」は見送られることになり、学校現場も混乱した一年でした。ただ、英語に関しては、大学入後、学部を問わず、英語が重視される時代ですので、今後も、英検を中心にした指導を継続していきたいと考えています。

これからの時代を生きていくには「自らの力で課題を発見し、解決していく力」が必要だと言われています。そこで、大切になるのが「自ら学ぶ姿勢」です。同窓会のご支援で、移動式電子黒板を導入していただきました。また、その他にも様々なご支援をいただきました。これらの活用によって、生徒の自主性を伸ばし、一人一人の進路実現を支えていきたいと思っています。

大学合格状況一覧 (平成29年～令和元年、合格延べ人数、浪は3年度分の過年度生合算)

国立大学	令和	平30	平29	浪
山形	1	2	1	
東北				2
福島			2	1
筑波	1		1	
宇都宮		1		
埼玉	1	1		1
東京学芸	1			1
電気通信			1	
横浜国立		2	1	1
新潟		1	4	1
上越教育	1	1	1	
富山	1		2	1
金沢	1		1	1
福井			1	
山梨	3	4	2	3
信州	7	11	9	3
静岡	1		1	2
名古屋				1
三重				1
鳥取			2	
島根		2		1
広島				1
高知		1		
長崎			1	
大分			2	
合計	18	26	32	21

公立大学	令和	平30	平29	浪
名寄市立			1	
岩手県立	1			
秋田県立		1	2	
茨城県立医療	1			
高崎経済	2	1	3	4
群馬県立女子		1		1
東京都立	1			1
新潟県立		1	1	
新潟県立看護	1		1	
長岡造形		2		
富山県立	1		1	
公立小松	1	1		
福井県立			3	
山梨県立	1	1	2	
都留文科		1	4	
公立諏訪東京理科	2	2	2	2
長野	1	1	2	2
長野県看護	2	3	2	1
長野県立	4	3	2	
岐阜県立看護	1			
静岡県立	2	2	1	
静岡文化芸術	1			
奈良県立	1			
宮崎公立	1			
名桜	1			
合計	25	20	27	11

私立大学	令和	平30	平29	浪
北海道科学				1
酪農学園	1			
八戸学院	1			
石巻専修				1
仙台		1		
東北福祉			1	
東北芸術工科大学		2	1	

私立大学	令和	平30	平29	浪
つくば国際	1	1	1	
桐生			1	
白鷺			1	
獨協医科			1	
常盤	1			
流通経済	1			
群馬パース	2	3	1	
群馬医療福祉	1			
高崎健康福祉	2	1	2	
尚美学園		1		
日本工業		1		
日本保健医療	1			
文教	5	4	3	1
獨協	2	3	3	
国際医療福祉			6	
神田外語	1	7	2	
国際武道	1			
秀明	2	1		
城西国際		1	1	
淑徳	3			
聖徳	1			
中央学院	1	2		
千葉科学	2	1		
千葉工業	8		3	2
麗澤	1			
和洋女子	1			
亜細亜	6		5	
明海		2		2
跡見学園女子	2	1	4	
桜美林	11	4	4	3
大妻女子	1	2	2	
共立女子	1	1	1	
杏林	3	3	1	
北里		2	1	2
恵泉女学院	1			
工学院	5	1		
國學院	1	2	2	
国士館	2	1	4	4
駒澤	1	2	6	2
駒沢女子	1	2	1	1
産業能率		1		
実践女子	1		3	
昭和			1	
昭和女子	1	3	1	
芝浦工業	2	1	3	6
順天堂	3	1	1	
上智		1		1
女子美術		1		
白梅学園			2	
成蹊	1	1		
成城		1	1	2
専修	4	13	6	
大正		4	1	
高千穂	1			
拓殖	6	4		
玉川	2	2		
多摩	2			
多摩美術		2		
大東文化	14	4	2	3
中央	1	3	1	2
津田塾	1	1		
帝京	10	3	4	1
帝京科学	2			

私立大学	令和	平30	平29	浪
帝京平成	2	2	4	
デジタルハリウッド	2			
東海	2	1	1	7
東京有明医療	1			
東京医科	1		1	
東京医療保健				2
東京家政	5	2	3	
東京家政学院		2	1	
東京経済	2	1	3	1
東京工科	2	4	1	
東京工芸	3		1	
東京国際	1			
東京女子	1		2	
東京女子体育		1		2
東京電機	2	4		5
東京農業	2		1	
東京福祉	3		2	
東京理科			1	
東洋	6	15	18	6
日本体育		3		
日本	14	12	5	5
日本社会事業	3	3	1	
日本獣医生命科学		1		
日本女子			1	
日本女子体育			1	
文化服装	1			
文京学院	1	1		1
法政	1	2	5	5
武蔵	1			
武蔵野	1	4	6	
明治	2	1	2	5
明治学院		3	5	
明星	4	3	3	
目白	3		3	
立教				3
立正	1	2	6	
早稲田				3
麻布	1		1	
神奈川	8	7	8	2
神奈川工科	4	7	1	
鎌倉女子	2	2		
関東学院	3	5	6	2
相模女子	2	2	1	
湘南工科		1		
洗足学園音楽				1
鶴見			1	
桐蔭横浜			1	
東洋英和女学院	1			
横浜美術			1	
横浜薬科				1
新潟医療福祉	2	2		1
新潟工科		1		
新潟経営	2			
新潟青陵	1			
新潟産業	2			
新潟薬科			2	
金沢学院	2			
金沢工業	1	7	4	
金沢星稜	1		1	
北陸	1	1		
福井工業	1	1		
健康科学	2	3	3	

私立大学	令和	平30	平29	浪
山梨英和	5	1		2
山梨学院	10	11	7	1
佐久	5	2	3	1
清泉女学院	3	1		
長野保健医療	11	1	1	1
松本	10	18	7	1
岐阜医療科学	5	3	1	1
岐阜聖徳学園	2	6	2	3
岐阜女子	3	2		
静岡福祉		1		
静岡理工科	3		4	
常葉	3	2	2	3
愛知		3		
愛知学院	7	4	3	
愛知工業			1	
愛知工科	2			
愛知淑徳	1			
愛知文教	1			
金城学院	1			
至学館		2		
修文	5			
大同		2	2	1
中京	6	4	1	
中部	3	3		1
東海学園	1		5	
名古屋外国語		6	2	
名古屋学院	4	1		
名古屋学芸	3	1		
名古屋芸術	1			
名古屋商科	1	1		
名古屋女子	1			
名古屋文理	1	1		
南山				1
日本赤十字豊田	2		1	
日本福祉	1	7	3	1
藤田医科		1		
名城	3	3	1	2
皇學館		1	2	1
鈴鹿医療科学		1		
成安造形			1	
大谷		1		
京都産業		4	1	
京都女子		2		
京都精華			1	
京都造形芸術		1		
京都橘		4		
京都ノートルダム女子	1	2		
同志社				3
龍谷		1	2	
立命館		2	3	2
大阪芸術		1	1	2
大阪体育		1		
関西			1	
関西外国語		1		
近畿		1	3	3
桃山学院教育			1	
神戸国際	1			
兵庫医療				1
奈良	2			
畿央		1		
九州栄養福祉	1			1
西南学院				1
合計	339	315	251	117

第84回 定期総会講演会

■講師／元同窓会長 笠井 嘉代子 様

(保護司・長野県更生保護女性連盟会長)

■演題／「更生保護活動とは一地域社会とともに歩む」



講師プロフィール

二葉高校同窓生(高校12回)
2002年 法務大臣より保護司に任命
2015年 安全安心なまちづくり関係功労者内閣
総理大臣表彰受賞
2016年 長野県更生保護女性連盟会長に就任
2017年 保護司として法務大臣表彰受賞

講演要旨

私は2002年に法務省より保護司に任命され、ボランティアとして16年間更生保護の活動をしてきました。更生保護とは、犯罪や非行をした人が社会復帰し、再び犯罪に手を染めないよう立ち直りを支える制度です。保護観察を受けている人と面接を行い、生活指導をして社会復帰の手助けをします。再犯を繰り返さないための生活環境の調整も、保護司の仕事です。また、地域のさまざまな団体との連携による、地域に根差した活動も行っています。

▽更生保護施設Ⅱ犯罪をした人のうち、住む所のない人が、一時的に生活して社会生活のための指導等を行う民間の施設です。
▽協力雇用主Ⅱ犯罪や非行をした人の前歴にこだわらず、積極的に雇用し立ち直りに協力する、民間の事業者です。建設業中心ですが景気の変動で少なくなっています。
▽更生保護女性会Ⅱ女性特有の優しさや細やかさで地域に根差した幅広い活動をし、犯罪や非行からの立ち直りを支援するボランティア団体です。

▽BBS会Ⅱ非行少年等と同じ目線で、兄や姉の立場で接しながら、立ち直りを支援し犯罪や非行のない地域社会の実現を目指す、青年ボランティアです。
更生保護の活動を通じて、世の中の様々なことが見えてきました。みんなが明るく安全に生活できる社会にするためにも、社会復帰した後の再犯防止が大切で、犯罪や非行からの立ち直りには、地域社会の温かい心が必要です。
更生保護の活動は、地域社会の受け入れと皆さんの力が必要なのです。ぜひこの機会に更生保護について考えてみてください。

平成30年度 第84回定期総会

(平成30年4月21日)

【議 事】

- ・平成29年度事業報告、決算報告及び監査報告、承認
- ・平成30、31年度正副会長、監事紹介、承認
- ・新会長挨拶
- ・平成30年度事業計画案、予算案、承認
- ・平成28、29年度役員退任挨拶

【講 演】

講師／笠井嘉代子様(高校12回)

演題／「更生保護活動とは一地域社会とともに歩む」

【音楽部演奏】

指揮／藤森 秀則先生 伴奏／藤森 香織先生
曲目／「大切なもの」「小さな世界」「流浪の民」

平成30年度 事業報告

【主要事業】

- 30・4・5……母校入学式、新入生に校章贈呈
- 30・4・21……第84回定期総会
- 30・6・30……二葉祭お祝い金贈呈
- 30・9・24……第11回ロビーコンサート
お雛様、手拭い展示
- 30・11・7……三者共催講演会 (学校・同窓会・PTA)
講師／桑子 敏雄先生
(東京女子大学特任教授)
演題／「風景の中の文学と工学～
文系と理系の選び方」
- 31・3・4……母校卒業式、卒業証書ホルダー贈呈

【理 事 会】

- 30・3・29……第1回理事会
新旧理事による合同会
平成29年度事業報告及び決算報告、
監査報告審議
平成30年度事業計画及び予算案審議
第84回定期総会について
- 30・7・12……第2回理事会
第84回定期総会、会計報告、反省
第11回ロビーコンサートについて
三者共催講演会について
- 31・2・7……第3回理事会
第11回ロビーコンサート会計報告、
反省
第85回定期総会について
平成31年度事業計画について

諏訪二葉高等学校



諏訪二葉高等学校同窓会 第84回定期総会 懇親会



平成31年度 第85回定期総会

(平成31年4月21日)

【議 事】

- ・平成30年度事業報告、決算報告及び監査報告、承認
- ・平成31年度事業計画案、予算案、承認

【講 演】

講師／行田 泰明氏(医師・岡谷市出身)

演題／「がんの話」

～医師として、Cancer Survivor(がんからの生還者)として～

【演 奏 会】

マリンバミニコンサート

花岡 利恵様(高校43回) 田窪 秋彦様

曲目／「パッヘルベルのカノンによる

トランスフォーメーション」

「さくらさくらによる5つの情景」

「マイフェイバリットシングス」

「日本のうたメドレー」

令和元年度 事業報告

【主要事業】

31・4・4……母校入学式、新入生に校章贈呈

31・4・21…第85回定期総会

元・7・6……二葉祭お祝い金贈呈、

クラフトかごのワークショップ

元・9・23……第12回ロビーコンサート

お雛様、手拭い展示

元・10・24…三者共催講演会(学校、同窓会、PTA)

講師／黒田 実氏

(日本電産サンキョー)

演題／「これからの社会で

求められるもの」

2・3・4……母校卒業式、卒業証書ホルダー贈呈

【理 事 会】

31・4・4……第1回理事会

平成30年度 事業報告及び決算報告、

監査報告審議

令和元年度 事業計画案、及び予算案

第85回定期総会について

バス旅行、二葉祭について

元・7・25……第2回理事会

第85回定期総会報告、会計報告、反省

第12回ロビーコンサートについて

三者共催講演会について

親睦バス旅行について

2・2・6……第3回理事会

第12回ロビーコンサート会計報告、

反省

バス旅行会計報告

新役員推薦、承認

会報「ふたば」第36号について

第86回定期総会について

第85回 定期総会講演会

■講師／医師 行 田 泰 明 様

(日本緩和医療学会暫定指導医、日本麻酔科学会専門医・指導医)

■演題／『がんの話』～医師として、Cancer Survivor(がんからの生還者)として～



講師プロフィール

岡谷市生まれ 諏訪清陵高校卒

1987年 日本大学医学部卒業

1991年 日本大学大学院医学研究科麻酔科学専攻卒業
日本大学板橋病院麻酔科・三井記念病院麻酔科・
癌研究会附属病院麻酔科勤務

1998年 要町病院緩和ケア部勤務

2013年 医療法人社団げんき会久保田げんきクリニック副院長

2014年 進行食道がん発覚により退職、闘病

2015年 医療法人社団淳友会わたクリニック船橋院長

2018年 2018-19 The Best Doctors in Japanに選ばれる

講演要旨

「世界一の長寿国」に生きる日本人は、統計的に2人に1人ががんで死亡することが推測される。

人体を構成する60兆個の細胞は、真ん中の核内の遺伝子(DNA)が傷つくのが普通だが、年齢を重ねるにつれてDNAの傷が積み重なり、がん細胞の発生が増える一方で、免疫細胞の機能(免疫力)が落ち、がんが発生する。

がんは検査によって発見されるまで、通常10～20年の時間が必要で、一部の例外(家族性腫瘍を除き)遺伝しない。

がんになる、ならないは「運」の要素が大きい。

▽がんの診断：がんを診断されたら自分のがんを知ることが大切。がんは早期発見、早期治療が原則！同じ臓器からできるがんでも、臓器の悪さが違うので、できる臓器とがんのタイプによって治療方針が決まる。病期、年齢、がんのタイプで治療法が異なる。「自分で自分のがんを知ることが必要」。情報収集では、情報の質が大切である。

▽治療病院の選択：手術数は病院の質を反映するという米国の解析結果がある。余命はあてにしないでよい。

▽私のがん体験：がんの闘病中、闘病意欲と悲嘆・不安が大きく揺れ動く。震度計のグラフのように、薬をも掴む思いとなる。がんは際限なく細胞分裂を繰り返して、誕生した臓器から他の臓器へ転移し、体が必要とする栄養を奪い取り死に至らしめる。がん治療は、転移前の最初の治療が極めて重要である。一発勝負、敗者復活戦なしの闘いである。

がんは、命に限りがあることを思い起こさせてくれる。①検診ではなく「受診」②質を見極めた「情報」③がんについて「知る」ことが大切。

方二葉高等学校同窓会





例年、午前中に開催していましたがロビーコンサート。新時代の最初のコンサートを、令和元年9月23日午後1時

第12回 ロビーコンサート



半から開催いたしました。コンサートは、音楽部の合唱「僕が見ている」の歌声で晴れやかに、瑞々しく幕を上げました。続いては、土橋綾子さん(高校50回生)の



オルガン演奏です。オルガンの響きは温かく、柔らかに、改めてオルガンという楽器の魅力に気づかされたひと時でした。休憩時間を挟み吹奏楽部

が登場。木管楽器の響きは懐かしく会場を包み込んでいきました。コンサートの最後、明治のピアノ演奏はマテー・千佐子さん(高校25回)。流れるような旋律で始まった即興曲、リリカルで歌うような演奏に一気に引き込まれ、どの曲も精緻な弱音から怒涛のフォルテと強弱がコントロールされた素晴らしい演奏でした。今回のロビーコンサートを通じ、明治、大正、昭和そ

して令和と100年を経たピアノ、大正のリードオルガン、お雛様等々、母校に伝わる生きた伝統の灯をこれからも大切に守っていく使命を感じました。

諏訪二葉高等学校
第12回 ロビー・コンサート
明治のピアノと大正のリード・オルガンが奏でる響き...

入場無料

令和元年 9月23日(月・祝)
13:30~15:30(開場 13:00)
諏訪二葉高等学校 玄関ロビー

主催：諏訪二葉高等学校・諏訪二葉高等学校同窓会・諏訪二葉高等学校PTA
お問合せ：0266-52-9595(同窓会) 0266-52-4628(学校)
お振込：駐車場がございませんので、お振込はご遠慮ください。



平成最後のロビーコンサートは平成30年9月24日、涼風の吹く秋晴れの中、母校に多くの同窓生や教職

第11回 ロビーコンサート



員、生徒が集まって行われました。若く瑞々しい歌声の音楽部の「ポジティブ太郎」いつでも始まり〜で、コンサートは幕を開けました。高校41回生でもあり、音



楽教師として二葉高校に在職されたこともある、田中花絵さんの大正時代のリードオルガンを使った演奏は、クラシックから童謡まで多彩な音色でロビーを包み、

聴く人の心に沁みわたりました。続いて高校33回生の安藤美季さんによる明治のピアノ演奏と安藤さんと同級生で、フルートの五味さち子さんの共演で映画音楽などのデュオは、お二人も息ピッタリで楽しく聞かせていただきました。会場には、従来二葉祭で展示してましたお雛様を飾り、大村はま先生の歌に色を添えました。また、節目

に同窓会が作っていた宮芳平、二木六徳両先生デザインの手による二葉祭手拭いも展示し、好評でした。

諏訪二葉高等学校
第11回 ロビー・コンサート
明治のピアノと大正のリード・オルガンが奏でる響き...

平成30年 9月24日(月・祝)
10:30~12:00(開場 10:00)
諏訪二葉高等学校 玄関ロビー

主催：諏訪二葉高等学校・諏訪二葉高等学校同窓会・諏訪二葉高等学校PTA
お問合せ：0266-52-9595(同窓会) 0266-52-4628(学校)
お振込：駐車場がございませんので、お振込はご遠慮ください。



音色を紡いで

明治のピアノと大正のリードオルガンの調べ



令和元年度 三者共催講演会

(令和元年10月24日)

■演題／「これからの社会で求められるもの」

■講師／日本電産サンキョー(株)管理本部副本部長兼人事部長

黒田 実 先生



黒田先生から「何か自分の中心となるもの(得意・特技)を身につける」など高校生のうちにすべきことを含め、「これからの社会で求められること」についてお話しいただきました。

講演会を聞いて

社会の厳しさを感じた。講演の中で何度も「理不尽」「不平不満だらけ」という言葉があり、将来への不安さえ出てきた。しかし、大切なのはどんなことにも対応できるような「柔軟性」や理不尽さを飲み込める「勇氣」を持つことだと思う。これらを兼ね備えていれば、社会で成功することができると感じた。

自分の容量を増やし、出来ることの幅を広げていかなくてはいけない。やり直しが利く学生だからこそ、色々なことに挑戦していきたい。自分の興味がある分野だけを勉強するのはなく、苦手な教科も含めた科目を勉強すること、グローバル化社会に対応する英語力を磨くこと、人との関わり方を考え、より良い人間関係を築いていくこと、このように小さなことを積み重ねて可能性を広げていき

いと思う。また、どんなことに対して受け身にならず、自分から積極的に行動していくこともとても大切である。私は人見知りなところがあるので、初対面の人などに対しては受け身になってしまいう場面がある。でも、これらの社会には積極的に努力や挑戦をし続けられる人材が求められるという話があった。元気なあいさつを自分からするなど、少しずつ積極性を身につけていき

いと思う。講演の中で「人間の幸せとは、人に『愛される』こと『ほめられる』こと『必要とされる』こと、人の『役に立つ』こと」という言葉があったが、この言葉が一番心に残っている。人間は、人との関わりで幸せを感じる生き物なのだ感じた。長い人生の中で、苦しいことや辛いことがたくさん待っている。人と共に助け合って、幸せな時間を増やしていきたい。

(1年女子)

平成30年度 三者共催講演会

(平成30年11月7日)

■演題／「風景の中の文学と工学

～文系と理系の選び方・学び方～」

■講師／東京女子大学特任教授 桑子 敏雄 先生



桑子先生は、日本でも有数の哲学の第一人者で、『環境の哲学』の出版を機に、日本各地の地域づくり、まちづくりにも携わっておられます。日常から風景をよく観察すること、風景の中には文系・理系がぎっしりあるようです。

講演会を聞いて

最初、私は風景の中にある哲学というものはどんなものなのか想像もつきませんでした。桑子先生の話を聞いて理解できたような気がする。特に「地域」と携わっている行政が違い、道路が整備してある所もあれば、あまり整備されていない所もある。川がきれいな所もあれば、そうでない所もある。地域ごと、力をかけている部分が違うことを読み取れば、そこに暮らしている人々の生活様

式も見えてくる」という言葉に、興味がわいた。実際に自分で風景の中から情報を読み取り、将来暮らす場所を決めたりすることもできるのかなと思った。私は今、文系で学んでいるが、生きていく上では、必ず理系の内容も必要になってくると思う。そんな時は、自分の考えだけを頼りに生きていくのではなく、多くの人と関わりを持ち、他者の意見からヒントを得ながら、多くの情報を読み取って行きたいと思う。

(2年女子)

私は、今まで自分の住んでいる地域にそこまで関心を持たず、当たり前のよう経過していた。しかし、今日の講演を聴き、よく観察し、そして興味を持ったことについて深く追求していくことの大切さについて考えることができた。今日の講演で、沖繩の森の対立や、大通りの活性化についての話を聞き、多くの人が地域について問題意識を持つて考えていることを知った。私も自分の地域についてよく知り、何

か疑問を見つけれらるぐらいの関心を持つていきたいと思った。桑子先生が話し合いの仲介に入る中で、相手の話をよく聞くこと、また聞くという中には、尋ねるという意味を持つて聞くことを聞き、相手の話を質問できるまで、自分の中で理解し、話し合っていくようにしたいと思った。社会に出ていく上で、教養を身に付け、これからの学びに積極的に参加していきたいと思う。

(3年女子)

野球部

2年3部 平出峻紘

私たち野球部は、甲子園出場を目標として、日々練習に励んでいます。練習はパートごとに分かれ、二つの課題を集中的に練習し、技術面や精神面を伸ばしています。私たちのチームは、どんなに苦しい状況になっても逆転することが出来る打ち勝つ野球が強みです。チームとして、地域の方へのあいさつ、礼儀正しさはグラウン

ド外でも選手一人一人が徹底しています。練習では、より効率よく、効果的な練習をするために、それぞれが次に何をやるべきなのか必要なことを自分で考え、積極的に行動に移して行くことを心掛けています。また、地域の皆様からの温かいご支援をいただき、地域・学校から認められるチームとなるために、

毎週木曜日の放課後に、ゴミ拾いをしています。



毎週木曜日の放課後に、ゴミ拾いをしています。

甲子園という大きな目標を掲げている中で、今のままではそれは夢のような話です。一人一人がより高い意識を持ち、考える力を更に養うこと、また、頭で理解しているだけでなく、それを実際に行動に移していくこと。これらのことをして、チームとしてさらに成長していきます。野球を通して、一球に対する執着心、一球に懸ける強い想いを持ち続け、技術の向上のみならず、人間性を磨いていき、一人の人間としても成長していきます。



県大会出場を目標に

2年 牛 尼 彩 乃

三年生が引退し、新チームを任された私は、「県大会出場」を目標に日々練習しています。マネージャーとして選手のことを近くで応援してき

た私の中で、特に心に残っている出来事を紹介します。

12月12〜14日に開催された南信高校新人体育大会で、私は惜しくも伊那弥生ヶ丘との試合に敗れ、県大会出

場を逃しました。伊那弥生ヶ丘とは、以前対戦したことがあり、「絶対に県大会に進みたい」という強い思いを全員が持ち、試合に臨みました。

ベンチにまで緊迫感や興奮が伝わって来ると、試合で、必死にボールを繋ぐ選手は、本当にかっこよくて、試合後泣き崩れる選手の姿から、全員の心に「悔しい」思いがあると同時に、「もっと強くなつて、次は絶対に勝つ」という思いが強く残りました。



あれから50年、
もう50年

木下君子 (高校23回)

50年前、それぞれの「夢」や「目標」を持つ性格も違う同期13人が入部。あの頃の私たちは、高校生を生きていた。バレーボールという目的を共有し、意見の違いや衝突はあったが、勝つバレーを目指した。試合に勝つ事、自分に勝つ事を考え3年間を過ごした。

その根底にあったのは、入学翌日の「厳さん」(立石厳先生)の言葉、『今日から叩いたり、蹴ったりの指導はしない。君達は牛や馬で

はない。考える力を持った二葉の生徒だ。今何をすべきか。勝つ事だけではない。どんなバレーをしたらよいか、考えるバレーをやってみろ』だった。言葉通り3年間叩かれることも蹴られる事もなかったが、ボールの入った竹籠や、審判台の上から靴が飛んでくることはあった。

高校生という多感な時期に、様々な葛藤があったのも大切な事だったと思う。自分達で考え、行動することを実践させてくれた「厳さん」に感謝している。高校時代に感じた想いや経験は、「創造と自立」を私の中に育ててくれた。また、私のような変わり者が大舞台に立てたのも、仲間がいたこと、先輩、後輩の存在が私にチャンスくれたと思う。

入学した年に創立されたOB会の応援も大

きかった。3年間「強い二葉」と言われ、県内タイトルは全て手にした。大会後、新聞に写真や個人成績が載ったのも発奮作用となった。北信越大会で初優勝。千葉のインターハイで東西対抗戦に出場。長崎国体では第5位(ベスト8)等は、特に記憶に残っている。

さらに日立やユニチカでの合宿を経て、12月23日から1月2日まで韓国でのアジアユース大会に、全日本ジュニアの一員としてアジア各国の同世代の人達と交流できたことも、卒業後の日本リーグのヤシカでのバレー生活等に影響した。

あれから50年、二度目の東京オリンピックの年が始まった。在校生の皆さんには、たくさん悩み、感じ、「あなたの高校生活を生きて」と願う。

歌舞伎に酔いしれて

鈴木公美
(高校34回)

令和元年10月8日(火曜日)、同窓会親睦バス旅行「歌舞伎鑑賞と銀座散策」に初参加いたしました。人生初の歌舞伎座・歌舞伎鑑賞

中島森利先生、平島佐一先生のご挨拶、続いて皆さんの自己紹介。早朝の出発にもかかわらず、バスの中は和やかな雰囲気でした。

中島森利先生、平島佐一先生のご挨拶、続いて皆さんの自己紹介。早朝の出発にもかかわらず、バスの中は和やかな雰囲気でした。

歌舞伎座に到着する頃には、心配された雨もあがり、蒸し暑さを感じるほどでした。入り口をくぐると、一瞬で背筋がピンと伸びるような雰囲気で、若干の緊張感を覚えましたが、ロビー横のバーには冷やし抹茶・シャランパン。お土産屋さんなども

あり……。歌舞伎座には、こんなお楽しみがあり、緊張感などはすっかり消えてしまふようです。

鑑賞した「芸術祭十月大歌舞伎」昼の部は四つの演目。二幕の後、長めの休憩時間、幕の内弁当(幕間に座席で食べやすいよう配慮されたであろう形に感動しつつ)を楽しみ、残りの時間は名店街もうろついてみました。舞台の前列、花道の真横の座席で観る華やかな舞、花道からの堂々とした登場。目の前で観る歌舞伎役者さん達、こんなに素敵だったなんて。片岡愛之助や尾

上松也に見とれてしまいました。こうしてハマって行くのですね、歌舞伎に。

終了後は、自由行動の銀座散策です。座席がお隣になった先輩とご一緒させていただきました。

帰りのバスでは、ビンゴゲームで「くまどり屋一門」の手ぬぐいが当たり、良い記念となりました。

今回のバス旅行にご尽力された、会長をはじめ同窓会役員の先輩方、伊那バス観光(株)さん(こちらも同窓生)素敵な時間をありがとうございました。

ス旅行

10月8日

演と銀座への旅

[illegible]

親睦バ
令和元年

歌舞伎座10月公



44名参加のもと、前日までは雨との予報で心配されましたが、出発時には小雨、近づくにつれ、雨も上がり予定通りの到着となりました。平日だというのに大賑わいの歌舞伎座。お席は花道のすぐ脇、役者の息遣い、汗まで飛んできそうな最高の場所で、演目4つを堪能しました。

馴染みの勧進帳やら、愛之助早変わりやら、まほろちゃんの子役姿等々、身近で楽しめた心に残る鑑賞となりました。観劇を終えた後は銀座の散策、1時間半あまりの短い時間でしたが、それぞれに秋の一日、銀座を楽しめたようでした。あっという間の一日、皆様のご協力により、無事に楽しい旅となりましたこと、改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

歌舞伎で至福の一日

鴨志田 明子 (高校14回)

記録的な大雨をもたらした台風19号上陸4日前の10月8日、同窓会親睦バス旅行「歌舞伎鑑賞と銀座散策」が行われた。ちょうど店の休みと重なり久しぶりの参加。バス座席表を見れば、卒業回生順に並んだ私の席は上から三番目。こんな齢になっ

たんだと妙に納得。卒業以来の歳月をしみじみと噛みしめた。

今にも崩れそうな空模様を気にしつつ、バスは渋滞に

巻き込まれることもなく、予定通り歌舞伎座に到着。新装なつても外観は殆ど変わらず、ビル街の中でそこだけは時が止まったよう。日本建築の素晴らしさを醸し出している。チケットの席は前から2列目、花道の真横。なんとラッキー！

今回の「芸術祭十月大歌舞伎」は芸術の秋を彩るにふさわしく豪華演目は四つ。緞帳が上がり、第一演目「廓三番叟」は洒落た趣向の華

やかな祝祭舞踊。扇雀、巳之助、梅枝の「三番叟」が長唄の囃子で華やかに艶やかに踊られる。第二演目の「御撰勧進帳」は荒事の豪快さに満ちたもうひとつの勧進帳。弁慶は松緑。生首を天水桶に投げ込む様は、まるでラグビーボールを扱うかの如し。

第三演目は「蜘蛛の絲梓弦」。愛之助の華麗な五変化早替り舞踊劇。常磐津、長唄の囃子に愛之助の繰り出す

千筋の糸、迫力ある立廻りが素晴らしい。千筋の糸は私達の席にも舞い込み、思わず手に。数ミ幅の糸テープは柔らかく、その細かさにびつたり。第四演目「江戸育お祭佐七」は、菊五郎の鳶と時蔵の芸者とのもつれる恋模様。花道でのバク転。落ちやしないかとハラハラドキドキ。寺嶋眞秀の勘平と亀三郎のお軽がなんともほほえましい。特に亀三郎のお軽は幼さの中に愛らしい色気の所作が一番心に焼きついた。

日本の伝統文化に今を取り込んだ芸の奥深さ。子役の名演技に脈々と受け継がれていく歌舞伎の世界を堪能し、至福のひとつを過ごせた。役員皆様のご配慮に感謝、ありがとうございます。

久しぶりの歌舞伎鑑賞

客員 平 島 佐 一
(昭和40~47年在職)

同窓会主催のバス旅行が10月8日(火)に行われた。多くの同窓生の希望によって歌舞伎鑑賞が計画され、加えて銀座散策が魅力であった。参加の誘いを受けたとき、これを最後と旅行の一員に加えて頂いた。

歌舞伎については学生であった時、近世文学、芸能に詳しかったT教授が「百聞は一見に如かず」講義を聴くよりは、歌舞伎座に足を運んで観てこい。そしたら出席扱い、単位をくれてやると粋な計らいをしてくれて、何回となく足を運んだものだ。学生の身で懐がさびしかった私は3階の立見席、双眼鏡で観るのがやっとな

あった。今回の二葉の歌舞伎鑑賞はどうだろう。舞台間近な上席、脇に花道、棧敷席があり申し分のない良い席で鑑賞できた。演目は四番。一廊三番叟、御撰(ひいき)勧進帳。以下二演目。祝祭舞踊、豪快な荒事劇の勧進帳。一人の役者の早変わり立ち廻りの舞踊劇、江戸の情緒漂う世話狂言等、芸術の秋に相応しい演目の数々であった。歌舞伎座ならではの幕の内弁当に舌鼓を打ち賞味した。

歌舞伎では一般的には上方(かみがた)の和事(わごと=男女の恋愛場面における柔和な演技)、江戸の荒事(あらごと=武人、鬼人やなどの豪快な演技)と二分されるが、今回の演目はその両方(和事・荒事)が組まれていた。

観劇の後は銀座散策。銀座は歩くだけで楽しい。目を惹きつける高級品に足が止まり、老舗の名店が居並ぶ。銀座は瀟洒にして品格の

ある街だ。数々のロマンが生まれ、夢見る人が行き交う。

私は銀座に行くと必ず立ち寄る店がある。鳩居堂だ。私は中島先生を誘って店内に入り、便箋と封筒を買った。この店は、紙、の文化伝統を伝え、今日に至っている。

諏訪を出る時は雨が降っていたが、やがて上がり心配なく一日を過ごすことができた。往きのバス内で「歌舞伎を観るのは初めてだが、大いに期待し楽しみにしている」と語った会員がいた。今回の旅行は十分その期待に応えるものだったと思う。バスの中には二葉の大きな周年行事に係わった同窓生もおり、終始和やかに楽しい一日を過ごすことができた。

終わりに、岸同窓会会長を始め、役員の皆さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。

— 教壇からの風景 —

二葉生へ



二葉高校の思い出

客員 中島 森利

(昭和46〜55年在職)

本館2階中央の国語研究室の窓からは、暮れなずむ諏訪の市街が見えます。一日の勤めを終えて、一息入れながら眺める二葉ヶ丘上の眺望は格別です。「すこやか」の像が夕闇の中にすくと立っています。二葉生の精神性を象徴するかのような凛とした佇まいです。

昭和46年4月旧講堂の壇上に立つて、新任の挨拶をしたのが今もって鮮やかによみがえります。教職に就いて3年目、24歳の新米教師でした。その後の10年間、二葉とともに過ごすことになりました。二葉を去るにあたり、その壇上から見た景色は、新任の時と少しも変わってはいませんでした。一緒に離任した立石徹先生と涙したことを思い出します。

私にとっての二葉は、教職生活38年の中でも特別な意味合いがあります。言ってみれば、まだまだ未熟な教師として生徒と切磋琢磨しながら、自分も成長させてもらったような10年間だった

かったかと思えます。当時の私自身の日記をひも解いてみます。

「昨夜から今日にかけて演劇の合宿。明け方三時まで頑張った。生徒たちの熱意に驚いた。また、その組織的な仕事の仕方に関心した。彼女たちの演劇に対する厳しさが痛いほどわかった。舞台稽古の後の熱のこもった反省会において痛感したことであつた。実に手厳しく、見ているこちらがハラハラするような指摘もお互いのチームワークの絆の中で行われ、あくまでよいものを創りあげようとする意志にすべてが集約されていた。」(昭和46年7月11日・日記)

このところ同窓会の行事にお誘いいただき、参加することが何度ありました。校歌や「白き翼」を口ずさむたびに熱い思いが胸を打ちます。同窓生の皆さんにとつてはもちろん、私にとつても二葉は「魂の永久のふるさと」なのだ改めて実感しています。



後列左から筆者、中島森利先生、平島佐一先生、山口美智雄先生。前列左から東明先生、浜惣治先生、小沢博也先生



二葉生のころ

英語 永田 恵子

(高校33回)

母校二葉に勤務して8年になります。赴任当初は、校舎はすっかり様変わりをして、また男子生徒がいることなどから、あまり母校に帰ってきたという感覚は湧かなかつたのですが、南校舎から見る風景や樹木が変わっていないこと、に郷愁を感じたものでした。さらに、赴任1年目からPTA係や同窓会係をする中で、保護者や同窓会の皆様を通して、強く母校だと感じました。

週5人程度の利用者だそうですが、「購買は必要だと思いませんか」という質問に対しては、80%が必要だと回答しました。なんだか矛盾した結果に生徒会として困惑している次第です。

いう流れだったように思いますが、品物も文房具だけでなく、靴下やストッキングなどカクセンに仕入れに行っていました。私は映画同好会だったので、シネマレイク(現在、諏訪市には映画館もなくなくなってしまいました)の映画の前売り券まで売っていたことを記憶しています。

現在の購買はというと、場所は北校舎2階生徒会室の隣にあり、昼休みに15分だけ開店しています。販売しているものは、ペン類や消しゴムといった文房具、校章、ネクタイ、これらのものは年に一回仕入れるかどうか程度の売り上げで、なんと二番の売れ筋品は、「割り箸」だそうです。つまりお弁当の箸忘れに利用されているのが大半のようです。このような状況の中で、購買を存続する必要があるのかどうか――生徒たちにアンケートを取ってみました。「これまで購買を利用したことがありませんか」という質問に対して、25%が「利用したことがある」。

昨年より生徒会係となり、生徒たちと二葉会を運営していく中で、私が在学中の頃と現在の違いをお話します。私は昭和54年在学中に、購買委員長を務めました。当時の購買は、生徒昇降口の横の階段下にありました。朝、昼、放課後1日3回開店し、大変な賑わいだったことを覚えています。当時の「天つ野」を見ると、3カ月に一度の大売り出しがあり、隔月でアンケートを取り、リクエストに応じて業者に発注、納品、販売と

私が二葉を卒業して40年になります。その頃の通学路と現在はいくぶん変わりました。駅前には、丸光デパートがあり、確か私が高校2年生の時に諏訪プラザができ、下諏訪から通学していた私は、「上諏訪で都会だ」なんて感じていたように思います。それが近年、丸光デパート、次いで諏訪プラザの閉店、解体。そして、現在はTSURUYAがオープンし、マンションが建設されました。

私が通学していた当時は、まだコンビニエンスストアはなく、夜遅くまでやっている商店はなかった。部活などで忙しい生徒にとつては、学校の購買は必須でした。しかし今、購買で売っているものは、いつでもどこでも買えるものばかり。わざわざ学校で買う必要もない時代になりました。

自分が関わった購買がなく、なるのは寂しい気もしますが、時代とともに生徒会も変わっていかねばと感じています。

二葉生へ



二葉に思うこと

数学 丸山 和宏

(高校44回)

二葉に赴任して4年が過ぎようとしています。二葉に赴任が決まった時は、生徒の雰囲気はどんな感じなんだろうかと、どのように接していけばいいのだろうか、と様々なことを考え、楽しみにするような恐いような気分です。分けて赴任してきました。しかし、実際に生徒に会うと挨拶をしてくれる子が多く、礼儀正しい生徒もいて安心したことを思い出します。私が在学していた当時、南校舎は木造校舎でした。今は立派な校舎に生まれ変わりました。しかし大根坂から見上げる二葉の校舎は今も昔も変わらない雰囲気があります。

今、二葉生を見ていて思うことは、私が在学していたときとは違い、とても気持ちよく、気配りのできる子が多いという印象を受けています。クラス、音楽会の練習や文化祭の準備の様子を見ていると、誰かに言われてやるのではなく、自然とパート練習や作業が始ま

ります。その姿を見てとても頼もしく思っていました。挨拶ができ、協調性があり気配りのできるところが今の二葉の良さではないかと感じています。

生徒会の役員の姿を見ても、やはり同じようなことを感じました。文化祭直前の準備から当日までとても忙しい日々を送っていました。計画通りにいかないことも多くありましたが、臨機応変に対応し担当の仕事でなくても手伝い、に回ったりして役員全員で困難を乗り越えていました。二葉の文化祭は役員が一致団結して作り上げたものでした。

また、二葉には変わらないものもあります。音楽会や文化祭で歌われる「BLUE」です。私が在学していた当時から行われていて、とても懐かしく伝統を感じて行きます。音楽会は当時よりも今のほうが熱心に取り組んでいるように感じます。朝も放課後も各教室から歌声が聞こえてくるのが素晴らしいことだと思います。文化祭のフィナーレで歌われる「BLUE」も当時から歌っていました。あの曲を聴くと当時のことも思い出して、胸にくるものがあります。「BLUE」は二葉の文化祭の象徴でもあるので、これからも大切にしていきたいと思っています。

このように二葉には、昔から変わらぬ伝統があります。このような伝統を大切にしていってほしいと思います。しかし、伝統を守るだけでなく、これらの二葉をよりよいものにするために新しいことにもチャレンジして欲しいと思います。一人一人がチャレンジする、クラスでチャレンジする、生徒会でチャレンジするなど、やり方は様々だと思います。失敗を恐れず、チャレンジすることで二葉が発展し新しいものになっていくはずだと思います。

私も二葉のために新しいことにチャレンジし、二葉の発展に少しでも貢献していきたいと思っています。二葉のために在籍生、同窓生が協力して様々なことに取り組み、新しい二葉になつていくことに期待したいと思います。



その名は二葉

書道 荻原 梓

(高校51回)

高校2年生の時の書道の授業で、漢字、仮名交じりの書という分野を知った。日本で日常表記に使う平仮名や、片仮名と漢字の交じった文を、創作的に書くという単元だった。それまでしたことなかったお手本を基にしない創作、そして使ったことのなかった淡墨を使った表現。お手本を真似して、きれいに書くのが得意だった私はすぐ戸惑ったことを思い出す。それと同時に、書道の魅力に取り憑かれたのもその頃であったように思う。当時の書道の先生は、淡墨だけでなく様々な筆も使わせてくれ、部活では硯を彫る体験もさせてくれた。限られた時間や予算の中だったろう。多くの経験をさせていただいたことは私が書の道へ進むきっかけの一つとなった。

高校3年生の時に赴任してきた書道の先生が、私の人生に大きな影響をもたらした。大学で書道を学ぶのはどうか。その問いかけが無ければ今の私は

無いです。受験のために細やかな指導をしてくれ、創作の手段として先生が所属する流派の書風を教えてくださいました。そうして私は大学へ進学し、専門的に書道を学ぶことになったのである。

二人の恩師との出会いがそこにあった。私と書道を結ぶもの、「その名は二葉」。

母校へ務めることになった時、祖母はとても喜んだ。祖母は諏訪高等女子学校のOG、私の大先輩。昨年亡くなるまで、祖母の高女時代の話を何度も聞いた。私も学校や生徒たちの様子などをいろいろ話した。

96歳で亡くなった祖母の高女時代の話は、興味深かった。今も現役の明治のピアノは、祖母の時代も活躍していた。音楽の先生が療養休暇に入り、代わりに体育の先生がピアノを弾いてみんなで歌ったこと。そして、燭台には実際にろうそくを立てていたこと。

諏訪高女が初任校で、のちに日本の国語教育の母と呼ばれた大村はま先生は、お雛様のようなお上品な御顔立ちだったのだということ。

校舎移転の際、女学生皆で敷地に一列に並び、石拾いをしたこと。諏訪湖で、皆でスケートをしたことや、薙刀の授業があったこと。(祖母の大昔の記憶であり、私もいざ文章にしようとするとき、良く思い出せず、多少の記憶違いがあるかと思いますが) 楽しそうに話す祖母を見て、いと、若かりし女学生の頃の祖母の輝いた姿が目につく。ふふ、ようだったし、祖母にとつて諏訪高女で過ごした日々が大切な思い出であることが伝わってきた。

その祖母の母校が私の母校にもなり、そして今、母校の教壇に立っている。そのことを祖母が喜んでくれていることが嬉しくて、毎日頑張ることができると頑張ろうと思える。

祖母と孫という結びつきだけではない。私と祖母を強く結ぶもの、「その名は二葉」。

誰の中にも「その名は二葉」と呼べるものがあるだろう。今回それに想いを巡らす機会をいただき、とても幸せに思う。感謝申し上げます。

二葉生へ

二葉生へ

—教壇からの風景—



二葉の思い出

諏訪二葉高校同窓会東京支部
(第24回生通信に寄せて)

客員 千田 俊明

(昭和40～46年在職)

二葉高校でお世話になった昭和40年4月から47年3月までの7年の間に、生徒会顧問と20回生、24回生のクラス担任を務めさせてもらいました。このころの二葉生は、変革を求めてとても行動的だったように思います。

昭和41年度は、3年ごとの二葉祭が行われる年でした。前期の二葉会(19回生)は、ファイアーストーム案を職員会に出しましたが、帰路の安全確保が困難などの理由で認められませんでした。代わりに新体育館でキャンドルサーブという案も検討されましたが、結局校庭で石膏像を囲んで合唱と詩の朗読をする「ファイナール」を行うことになりました。

2学期に入って2年生(20回生)から二葉祭を来年も続けたいという声が上がりました。論議の末に二葉会は毎年開催案を打ち出しました。職員会との間にやり取りがあつた末、喫茶を廃止するなど華美な要素をなくし、予算を切り詰めることを条件に、二葉祭の毎年度開催が認められました。

翌42年度になって、前期二葉会(20回生)から合唱と詩の朗読「ファイナール」に替えて、「ぜひ、ファイアーストーム」という要望が出され、職員会に諮りました。先生方の間には「男子校の真似をするなんてとんでもない」「火災の危険がある」「帰路が心配だ」などの意見が出され審議は難航。本部からは「職員会を傍聴させてほしい」という要望も出されました。何回かの職員会を経て▽消防団に待機してもらって▽午後6時までに終わる▽保護者に迎えに来てもらう▽名称をファイナールとする—の条件で、ファイアーストームが認められました。しかし、いざ実施してみると、まだ周囲が明るい中でファイアーストームは盛り上がり

に、2葉では2年になる時に、クラス編成替えをしていましたが、昭和44年3学期に1年4部(24回生)からクラス替えをしないで欲しい—という要望が出されました。折角まとまってきたクラスを解散したくないという声は、他クラスにも波及。「校長に直訴する」「署名を集める」との話も伝わってきました。生徒の要望を職員会に諮ったところ、甲論乙駁(こうろんおつぼく)の末、次年度からクラス替えをしないことに決定。反戦高教の運動が活発化していた時期で、職員間に持ち上げ方式は生徒を掌握し易いという意見が多くありました。

24回生が3年の時、音楽鑑賞会に当時、人気の高

がりに欠けました。昭和42年度後期、職員会で終了時間の延長が認められ、43年度(21回生)になりやつと夜空を焦がす炎を囲み、全校生徒がマイム・マイムを踊るファイアーストームが実現しました。当時、女子校のファイアーストームは珍しく、松本蟻ヶ崎高校生徒会役員が非公式に見学に来ていたことを思い出します。

二葉では2年になる時に、クラス編成替えをしていましたが、昭和44年3学期に1年4部(24回生)からクラス替えをしないで欲しい—という要望が出されました。折角まとまってきたクラスを解散したくないという声は、他クラスにも波及。「校長に直訴する」「署名を集める」との話も伝わってきました。生徒の要望を職員会に諮ったところ、甲論乙駁(こうろんおつぼく)の末、次年度からクラス替えをしないことに決定。反戦高教の運動が活発化していた時期で、職員間に持ち上げ方式は生徒を掌握し易いという意見が多くありました。

24回生が3年の時、音楽鑑賞会に当時、人気の高

がりに欠けました。昭和42年度後期、職員会で終了時間の延長が認められ、43年度(21回生)になりやつと夜空を焦がす炎を囲み、全校生徒がマイム・マイムを踊るファイアーストームが実現しました。当時、女子校のファイアーストームは珍しく、松本蟻ヶ崎高校生徒会役員が非公式に見学に来ていたことを思い出します。

二葉生が生徒会を抛り所に変革を求め、積極的に行動した背景に、二葉会の自治の伝統、諏訪人の進取に富む気質といったものを感じます。昭和41年から大学紛争が激しくなり、45年には県内高校の卒業式で、反戦高教が実力行使をするなど、学生運動が高揚した時期で、そのような社会状況も影響していたように思います。二葉祭で掲げられたテーマ「可能性の追求」は、私の座右の銘の一つになっています。2004年(2019年補筆)

ような事をおっしゃっておられました。「歌う事は楽しい。」シンプルでいい言葉だと思います。その曲はどちらかと言えばあまり明るくない曲でしたが、歌っていて楽しかったです。

「歌う事は楽しい。」それは人によっては技術を伴うものかもしれません。しかし技術をもってすればきっと歌う事は楽しいと思います。



音楽部の思い出

國貞 紀子

(高校24回)

母はいつも歌を口ずさんでいる人でした(96歳、今も健在)。その母に私が音楽大学の声楽科を目指すと言った時に「あんなの歌っている声、聴いたこと無いけど!」と言われました。その通り、私は音楽部(合唱部)に所属してはいませんが、歌が大好きというわけではありませんでした。ピアノを弾くのが好きで、その延長線上に歌があつたともいえます。音楽に関わっていたと思う一心で、自分の進む道を模索していた気がします。合唱部には素晴らしい声の持ち主が何人もいて、その先輩達を追いかけて、「ピアノと違い歌は今からでも音楽大学に間に合う」とのアドバイスをいただきました。それから現在に至る長い長い歌との付き合いが始まり、今も続いています。

二葉高校のあの音楽室、合唱部の歌声が、私のライフワークでもある音楽活動に今も繋がっていると思います。そして、細々でもそれを続けていられる幸せに感謝しております。



茅野富佐子
(高校10回)

32年の夏休み中に起こった仲良し5人組のおはなしです。二葉の校門の前に捨てられていたポチが、影の主人公です——という設定で、8ミフィルムに32分間に収められています。当時、二葉高

諏訪市内には6館もの映画館があり、今も残る名画の数々が次々に上映される全盛期でした。「ローマの休日」「エデンの東」「慕情」等、明けても暮れても映画館通い。そのうちさすがに飽きてしまい、それなら自分達で映画を作ってみようと思

まず映写機は、当時ヤシカと三協精機が8ミリを作り始めていた時期で、それを貸して頂くべく日参。部費は当時の顧問曰く「部として認可されていないから一切出せない」と。そこで市内の映画館を回り、前売り券を一切引き受けて売らせてもらい、1枚売ると5円の手数料で、フィルム代3分750円を30本分捻出。技術その他は清陵OBで日大芸術学部との4人の協力を仰ぎました。

音楽部部長 2年2部 小 平 鈴 乃

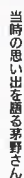
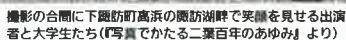
他校との活動になってしまいますが、今年度全国
総文祭にて「もうひとつのキャッチボール」という曲
を歌いました。その際指導してくださった先生がこの

武藤桂子

写機を担いで校内の画像を撮り歩いた事だろうか。ナレーション担当が誰であつたか、それさえも記憶が定かではないが、一階から順次階段を上り、屋上までたどり着いた時の爽快感と解放感だけを思い出す。

朝な夕な、大根坂を上り下りしながら語り合つた映画の数々。誰もいない図書館の第二閲覧室でキネマ旬報のバツクナンバーに耽溺した日々。「三つ子の魂百まで」とは言つたものである。10代という多感な時代の情熱は、50年近くの時を経てなお形を変え、いまだ胸の中で焔の如く揺らいでいる。

8
ミ
リ
映画
あ
す
上
映



を呼び掛けている。

四川小津安二郎紀念
藝科高原映園祭

諏訪二葉高 諏訪市の映画部が、1947昭和32年に制作した
8巻映画「買物歌」が2月14午後0時30分から、茅野市の新皇皇樹
で上映される。第2回小津安二郎記念 資料館映画祭(21)は20日
の招待作品で、同校の文化や部活動以外で一般公開されるのは初
だ。周囲の人の協力を得ながら部員が手作りで仕上げた青春映画
は、小津監督が資料館に通っていた日本映画の黄金期と華やか。古
き良き諏訪を記録した貴重な資料にもなっている。

茅野市の新星劇場

茅野市の新
先輩に憧れた女子生徒も多かったとい
う。同窓会役員の発案で2005年の
同窓会総会で約半世紀ぶりに上映さ
れ、大きな話題を呼んだ。その後、同
校100年の歩みを記録したDVD
「魂の永久のふさこ」(07年)に収録
され、同窓生らに頒布した。

記 号

令和元年 9月21日付の長野日報で紹介された記事

夏休み中、おにぎり片手に諏訪湖畔、霧ヶ峰とロケに歩き回り、何とか二葉祭に上映することになった。

武藤桂子
(高校25回)

レーション担当が誰であったか、それさえも記憶が定かではないが、一階から順次階段を上り、屋上までたどり着く



聖火とともに――蘇る青春の「宝物」

「TOKYO2020」の今年は、1964（昭和39）年以来、56年ぶり2度目の東京オリンピックが開かれることから、本番に向けて着々と準備が進められていました。近代五輪発祥の地・ギリシャのアテネで採火さ

れた聖火は、3月に日本へ到着したものの、世界で感染者が急増している新型コロナウィルスによって、東京大会は1年後に延期されることになりました。今回の東京五輪は、東日本大震災からの「復興五輪」をテーマと

しています。半世紀以上前の東京大会は「戦後復興」を掲げていました。前回五輪で、諏訪のメインストリートで聖火ランナーとして走った同窓生に、当時の思い出を語って頂きました。

聖火ランナーとして

原（細田） 啓子
（高校17回）

私は茅野市本町生まれで、永明中学校から諏訪二葉高校へ進学しました。当時、永明中学校に部活はありませんでしたが、陸上とバレーボールに親しんだりし、強歩大会で優勝したこともあります。

そんなスポーツ好き女子でしたので、二葉に入学し友達に誘われるままバレー部に入部。立石厳先生から「おぼちゃん」とあだ名をつけられ、少しばかりシヨックでしたが、厳さんの厳しい指導のもと、バレーボールに明け暮れた三年間でした。二

カラー写真は諏訪市のメインストリートを走る原（細田）啓子さん。周辺は「聖火を一目見よう」と群衆であふれた。湯の脇バス停で原（斎藤）実子さん＝左＝から聖火リレーを受ける原啓子さん



葉にもマラソン大会があり、諏訪実業高校の校庭をスタートし二葉がゴールという、今から思えば短いコースですが、そこで私は1位となり、2位はスケート部の原（斎藤）実子さん。注1、後にオリンピックにも出場され

た方です。私と実子さんが聖火ランナーに決まったのです。

スケート部の活躍は目ざましく注2、「スケート部には負けたくない」という気持ちが自分を鼓舞し、一生懸命走ったことを覚えています。結果は1位がバレー部、2位から5位までがスケート部でした。1位でゴールした時の、厳さんのうれしそうな満面の笑みが忘れられません。きつと聖火ランナー選出の伏線があったことを思い出したのでしよう。

聖火ランナーの話があることは全く知りませんでしたので、選ばれた時はただただびっくりしましたが、大変うれしく、この年に生まれた幸せ、めぐり合

わせた感謝の気持ちでした。選ばれた喜びは、後からじわじわと私の胸にわいてきました。今も感謝でいっぱいです。

事前リハースルのようなものは、ほとんどなかったような気がしますが、受け渡しの場所にチヨークで「〇」が書いてありました。実子さんが大和から湯の脇を、私が湯の脇から本町までを走り、諏訪実業高校の女子生徒に聖火を引き継ぎました。私の後ろには伴走者としてトーチを持ったバレー部の相山（益田）加代子さん、青木（五味）徳子さ

ん、その後ろには20人の運動部の仲間が付いてくれました。

あの日（昭和39年10月6日）は、雨上がりで路面が濡れていま

したが、それがまた清々しく、聖火からたなびく煙が幻想的な雰囲気を感じ出し、沿道での応援からもたくさんの力をいただきました。卒業後は短大に進学、その後、職場の山岳部に入り、今も山登りを続けていますが、やはりバレーは私の原点であることを実感し、地域でのママさんバレーやソフトバレーを続けています。ママさんバレーでは二葉のバレー部の五味先輩と全国大会に出場したことも良い思い出です。

聖火ランナーを務めさせていただいたことは、私の人生において大きな礎であり、今も手元に残る染みのついたユニホームとともに大切な宝物です。

※注1＝原実子さんは、1968（昭和43）年のグルノーブル冬季五輪に出場。諏訪二葉高校出身者では初のオリンピック選手となった

※注2＝スケート部は昭和40年1月、蓼科城の平で行われたインターハイで、南佐久実業現小海の総合10連覇を阻止し、10年ぶり3度目の全国制覇を達成。2000年リレーでは当時のシングルトラック日本記録をマークした

快進撃の裏に『絆』で結ばれた師弟

ロイヤル・ウエディングの誓い

高校スポーツの中で、最も歴史があるのが高校野球である。大正4(1915)年に全国中等学校野球優勝大会として産声を上げた高校野球は、今年令和2年で105年を迎える。野球にそれほど興味がなくとも、高校野球が始まるとまず「母校を」、そして甲子園となると「おらが郷土の代表を」応援する。なぜ高校野球は多くの人を魅了するのか。それは、常にひたむきにプレーする高校球児の姿に、感動を覚えるからなのかもしれない。

高校野球の歴史の中で、『二葉球児』たちが母校を、同窓生を、そして地域を熱狂させたシーズ

ンがある。学校創立85年に当たる平成5(93)年、第75回全国高校野球長野大会、準決勝まで駒を進めた、球児たちの熱い戦いである。

諏訪二葉は学校創立以来、一貫して女子教育の学校として歩みを刻んできた。県内では最後まで『女子校』だったものの、昭和62(1987)年4月、初めての男子生徒を受け入れ、男女共学となった。同時に、野球部も創部されたが、学校の伝統は長いといつも部の実績はなく、春夏秋冬の公式戦で白星を挙げることが、そう簡単なことではなかった。平成2(90)年に松田敏明監督が就

任。少しずつ力を付けた野球部だったが、平成5年の長野大会開幕前の下馬評に「二葉の名前はまっただけなかった。事実、前年秋に新チームへ切り替わってから秋、春とも北信越南信予選1回戦で敗退しており、夏の大会への期待は余り高くない。」

ところが…。平成5年6月9日という日を、覚えている人は少なからう。この日は、皇太子さまと雅子さま(今上天皇皇后陛下)が結婚された日。国民の祝日となった同日、野球部の松田監督が結婚式を挙げた。その席に、野球部員は出席していないが、部員たちの監督へのプレゼントは「夏の大会での勝利」というメッセージだった。それから1カ月半後、選手たちは快進撃を続け、新

婚ホヤホヤの指揮官に5つの白星をプレゼントした。

長野大会で二葉球児は、のびのびとしたプレーで次々と強豪、難敵を倒して行った。柳平主将がまとめるチームは小池、金沢のダブルエースと当銘捕手のバツテリーを軸に、一戦ごとにたくましさを増して行った。乱打戦となった準決勝は岩村田に敗れ、決勝進出は叶わなかったが、この試合の前半は完全に二葉ペース。松本市野球場には、400人を超え、応援団が押し寄せ、仲間に大声援を送る。応援団がないため、ペットボトルに豆などを入れて打ち鳴らすなどの手作りの応援は、大会関係者にも感動を与えたほどだった。

1993年(平成5年)7月29日 木曜日

二葉、前半は主導権

守備に甘さ、好機つぶす

点の多い8回に大量点許す

勝ち意識、作戦に迷い
「信頼」深めた師弟

当時の二葉球児の活躍を伝える長野日報

敗戦後のインタビューで、約束通りに数多くの白星をプレゼントした柳平主将は「ここまでこれうれしかった。負けたけれど監督に恩返しできた」と言えば、指揮官は「よくここまでできたと思う」と、大会を通じて成長した選手の健闘を讃えた。一戦ごとに「信頼」を深めた師弟は、白星以上に「絆」という財産を手に入れた。

第60回 二葉祭への参加

令和元年7月5～7の3日間、第60回二葉祭が行われ、同窓会が一般公開の6、7日に、ワークショップ『クラフトバスケット』を開催しました。

本部役員の中にクラフト手芸愛好家があり、その作品に常々触れていたこと、それぞれに自分で作ってみたいというのが、今回のワークショップのきっかけです。果たしてどれだけ多くの方が体験してくれるのだろうかーと心配しましたが、両日とも大勢の老若男女が来訪し作品を仕上げ、出来栄に満足され、作品を持ち帰って頂きました。

参加して下さった方々の喜ぶ顔を見て、当初の不安な気持ちが吹っ飛び、私たちも満足感100%で二葉祭を終わることができました。参加頂いた方、覗いて下さった方々、協力頂いた



先生方、同室で何かとお心遣いをいただいたPTAの方々にも感謝です。

そして二葉祭を盛り上げ活躍された全ての生徒の皆さんに、元気をいただきました。本当にありがとうございました。

支部長	支部長報告
高木 美鈴 (高21回)	「地元なのに、知ってはいるけれど行ったことのない所。もっと知りたい所」というコンセプトで、企画しました。図書館のため、飲食はできないということもあり、会費も無料とし、本部からの補助金の範囲内で行いました。また、開催時期を本部総会の近くに設定することで、役員さんの各会員への通知等の負担をできるだけ減らすようにしました。諏訪市は地元なので、本部総会にできるだけ協力、支部総会は各分野で視野を広げ、体験できる良い機会だと思います。「知るは楽しい」。
上原 智子 (高31回)	校長先生、同窓会本部役員の皆様の御出席を賜り、歴代会長の笠井様、河西様にもお越しいただき、盛大に開催されました。例年、講師をお招きし、講演会を開催していましたが、今回は朗読コンサートを実施しました。ハッ葉会支部25回生でもある岡埜葡萄様の朗読と、ご主人の哲也様のリコーダー演奏による素敵なコンサートとなりました。藤沢周平作の『山桜』の世界に引き込まれ、日常ではなかなか味わえない貴重な時を過ごすことができ、好評でした。懇親会は、アトラクションをなくし、ゆっくりとご歓談いただき、名残り尽きない中閉会できました。総会開催にあたり、お心添えいただき、ありがとうございました。
上沼 恵美 (高37回)	総会後は、37回生でもある講師の先生をお招きして、校長先生はじめ来賓の方々、傘寿の方々まで参加していただき、3B体操を行いました。また、昼食会では100周年のDVDを鑑賞し、年齢を越えて二葉の思い出を語り合い、終始笑顔でとても楽しい時間を過ごすことができました。
宮坂みどり (高37回)	「母校を応援し、ゆるやかにつながるための下諏訪支部」少人数ではありましたが、和気あいあいとした時間を持ち、岸同窓会長さんより懐かしいお話しをお聞きし、良い親睦会となりました。
三井 淳子 (高26回)	多数の会員様の参加をいただき、「老いと介護」について、第一線で働いている後町さんにユーモアあふれ、そして考えさせられる講演をしていただきました。会員の皆様が各分野で活躍している事に、「やっぱり二葉」とうれしく思いました。
中坪 和子 (高18回)	本格的な紅茶セミナーに、皆さん興味深く耳を傾け、味わっておいしました。その後の食事を楽しみながらの懇親会も、本格的なカレーからデザートに至るまで、皆さん満足されたようで、計画致しました役員も満足な支部総会となりました。
百瀬よし江 (高22回)	校長先生と同窓会副会長さんにご出席いただき、母校の近況などお聞きし、アトラクションでは「語り」とサキソフォンの美しい音色に、忙しい日々の中、やすらぎのひとときをいただきました。高校時代のなつかしい思い出などに花が咲き、楽しい会になりました。
鈴木 公美 (高34回)	好天に恵まれ、会場では受付時にリハーサル中(ウォーミングアップ中)のピアノの音色が流れ、ゆったりとした時間も過ぎていただけだと思います。守屋校長先生より、高校改革の話など考えさせられる事もありましたが、和やかな雰囲気、落ちついた総会だったと思います。
滝沢 明葉 (高41回)	美味しいお料理をいただきながら、昔と今の二葉高校のお話ができて、大変有意義な時間が過ごせたと思います。ただ、出席できる方が本当に少なく残念でした。
五味のりほ (高25回)	1部の議事は南信同窓会や東京同窓会の参加についての意見などが出され、活発な討論が行われ、二葉生らしい、いろいろな意見を聞くことができました。2部の二木先生のお話はなつかしく楽しいものでした。3部の傘寿の会は26名でパフォーマンスをされ、すばらしかったです。
鈴木 泉 (高27回)	1部の議事は滞りなく承認されました。2部の上野先生の講演は大変楽しく、有意義な時間であつという間に終わって、もっともっとお聞きしたかったです。3部の傘寿の会は26名でパフォーマンスをされ、素晴らしかったです。
小坂 瑞穂 (高12回)	相変わらず出席者が少ないので、本部の名簿をもとに、広く案内状を出すことにする。総会案内状のはがき代節約のため案内状の要・不要を返信ハガキに記入してもらう。ロビーコンサートのCDをバックに流し、ゆったりとした時間で自己紹介ができた。
小坂 瑞穂 (高12回)	約170名に発送したハガキは、今後も案内通知が必要は40名。ほとんどが不要は残念。今後この40名を総会案内発送用の名簿とする。原村をふるさとのように愛されているご夫婦の草笛演奏を聴く。一曲目は笛とギターで、二葉高校の校歌演奏で驚く。参加者も大きな声で懐かしく歌いました。返信ハガキに男性が一人居り、今後に期待したいと思います。

平成30年度・令和元年度 支部報告

支部名	日 時	開催場所	内 容	出席者
諏 訪 (諏訪9地区合同)	2019年5月18日(土) 13:30~16:00	信州風樹文庫 平林たい子記念館	・支部、学校、同窓会挨拶 ・講演「岩波茂雄と風樹文庫」講師/元風樹文庫館長 岩波弘之氏 ・信州風樹文庫内、書庫等見学 ・平林たい子記念館見学	34名
八 ッ 葉	2019年11月2日(土) 10:30~14:20	マリオローヤル会館	・総 会 ・朗読コンサート 藤沢周平作『山桜』 朗読/岡埜葡萄様(高25回) リコーダー/武藤哲也様 ・懇親会	48名
三 ッ 葉	2019年11月17日(日) 10:30~14:00	岡谷中央通りメモリー	・支部、学校、同窓会挨拶 ・平成28、29年度事業報告、会計報告 ・平成30、令和元年度事業計画、予算 ・講座「健康で美しく老いる」 講師/日本3B体操協会公認指導者 小池仁恵さん(高37回) ・傘寿お祝い花贈呈(高校10、11回)昼食会	24名
下 諏 訪	2018年7月21日(土) 13:30~15:30	下諏訪町 総合文化センター 軽体育室	・ピラティス体験講座、参加者自己紹介 講師/ピラティスコーチ 長矢 良子先生 ・将来の高校再編等について 講師/岸同窓会長	16名
富 士 見	2019年9月28日(土) 13:30~	コミュニティプラザ AVホール	・平成30年度、令和元年度事業、会計報告 ・講演会「老いと介護」 講師/社会福祉士 後町みどりさん(37回)	49名
伊 那	2019年9月28日(土) 10:00~14:00	上伊那郡宮田村 スリランカレストラン 「アルッガマゲ」	・紅茶セミナー ・総 会 ・懇親会、昼食	13名
伊 北	2019年10月20日(日) 10:00~14:00	たつのパークホテル	・支部、学校、同窓会挨拶 ・2018、2019年度事業報告、決算報告 ・支部会則改定案について ・アトラクション、昼食、懇親会	36名
松 本	2018年10月21日(日) 11:45~15:00	松本市 レストランテ アルシエロ	・支部長挨拶、来賓祝辞 ・議事 事業、会計報告、事業計画案、予算案承認 ・ミニコンサート 安藤 美季さん(33回) ・会 食	15名
長 野	2018年12月2日(日) 11:00~	日本料理 旬花	・支部、学校、同窓会挨拶 ・自己紹介、会計報告 ・懇親会(欠席者のはがき回覧)	8名
東 京	2018年5月19日(土) 10:00~15:00	アルカディア市ヶ谷	・前年度活動、決算報告 ・今年度事業計画と予算案審議 ・講演/二木 六徳先生 演 題「二葉の22年」 ・傘寿の会	135名
	2019年5月11日(土) 10:00~15:00	アルカディア市ヶ谷	・前年度活動、決算報告 ・今年度事業計画と予算案審議 ・講演/上野千鶴子先生 演題「おひとりさまとして自分らしく生きる 一あらゆる資源を活用して」 ・傘寿の会	163名
関 西	2018年6月9日(土) 11:00~15:00	大阪第一ホテル	・会長 本部総会の報告など ・校長 資料を基に進学状況などの説明	15名
	2019年6月8日(土) 11:00~15:00	大阪第一ホテル	・会長 各支部総会の様子など報告 ・校長 教育方針、高校再編成、進学状況など説明 ・平林たい子記念館についての講話	16名

事務局からのお願い

- 住所等、会員情報に変更があった場合は、事務局までご連絡(氏名＝旧姓、卒回、郵便番号、住所＝新旧、電話番号をお書き添えの上)をお願いいたします。はがき、FAX、電話、メールなどいずれかの方法でお知らせください。
- ご逝去された方の場合も、同様にご連絡をお願いいたします。
- 会報は、終身会費をお納めいただいた会員様にお届けしております。昭和63年以前に卒業され、会報が届いていない方は、終身会費を納めていない可能性があります。住所変更のご連絡がない方も、住所不明により会報をお送りすることができません。会報が届いていないなど、ご不明な点がございましたら、事務局までお問合せください。22ページの役員名簿欄の下段に事務局の連絡先があります。



編集後記

会報36号の発行に際しましては、多くの皆さまのご協力をいただき、誠にありがとうございました。今回、会報の様相を少し変え、発行時期も定期総会後にいたしました。

お待ちいただいていた会員の皆さまには、ご心配をおかけしましたが、ご一読いただき、母校に想いを馳せていただければ幸いです。

ここのところのコロナウイルス蔓延で、同窓会運営にも少なからず支障をきたしております。どうか同窓生の皆さまにおかれましては、ご健勝にてお過ごしくださいますよう、心よりお祈りいたします。

また、この会報がお手元に届きます頃には、平和な日々が訪れていることを願ってやみません。

末筆になりましたが、母校のますますの発展のため、皆さまの変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。(岸記)

同窓会教育支援金

次のように活用されました。

- ①北校舎及び音楽室網戸取付工事[北校舎201番、301番、401番、402番教室に各4枚、被服室5枚、書道教室11枚(以上普通仕様)、音楽室6枚(特別仕様)]
- ②LL教室改修工事等一式
- ③地歴公民教室エアコンクリーニング(4台分)
- ④ICT研修用情報機器一式購入(書画カメラ1台、プロジェクター1台、プロジェクタースクリーン1台)
- ⑤201番教室ほかFF式暖房機設置工事(北校舎201番、301番、401番、402番、403番教室に各2台設置 計10台)



寄贈

【遺志金】

山根美智子様(高校29回)

10万円(平成30年10月19日)

母堂故伊東達子様(高校4回)

【寄付】

内藤けい子様(高女40回)

30万円(平成30年3月29日)

笠原 久子様(高校13回)

8千円(平成30年3月20日)

【寄贈図書】 同窓生の著書

廣瀬 綾子様(高女20回)

【四代記】

大久保千鶴子様(高校7回)

【歌集】夕鶴

柳谷 郁子様(高校8回)

【美しい人】

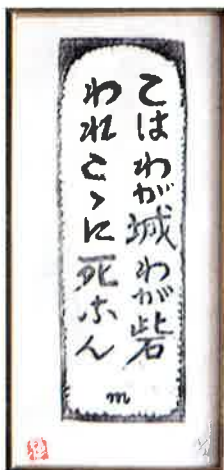
和 千由紀様(高校30回)

「成功する起業5つのステップ」

伊藤 理佐様(高校40回)

漫画「女いびき猫ふたり」

宮 芳平先生作品



学校職員の異動

【平成30年度末転出】

濱崎 容子(国 語)退職
中塚美奈子(国 語)野沢北
海沼 博義(地 公)下諏訪向陽
小林 史弥(地 公)木曾青峰
西澤 宏紀(地 公)飯田・飯田風越
小松 清道(数 学)岡谷工業
中田 真也(理 科)松本美須ヶ丘
春日 一夫(理 科)下諏訪向陽
鈴木 幸夫(保 体)岡谷南
柳澤 和衛(英 語)辰野
守屋 未来(養 護)東海大諏訪

須田ひとみ(養 護)退職

【令和元年度転入】

山岡 久俊(教 頭)松本筑摩
間宮由美子(国 語)富士見
鈴木 綾(国 語)上田
平澤 賢(地 公)新採用
辻 清隆(地 公)諏訪清陵
中澤 通秋(地 公)上伊那農業
谷口 充(数 学)上伊那農業
大口 雄也(理 科)梓川
本間ちはる(理 科)新潟県立羽茂

佐々木英雄(保 体)諏訪清陵
佐々木陽子(英 語)上田千曲
山屋 真琳(養 護)上田染谷ヶ丘

【令和元年度末転出】

山岡 久俊(教 頭)伊那北
阿部 力(国 語)県教委
鈴木 綾(国 語)白馬
小池 幸夫(地 公)伊那弥生ヶ丘
武田 圭弘(地 公)長野
辻 清隆(地 公)退職
小松 良尚(数 学)岡谷南・松本工

竹田 宏(数 学)塩尻志学館
本間ちはる(理 科)辰野
名取 有希(保 体)退職
百瀬 公人(英 語)下諏訪向陽
河西 亨(英 語)諏訪実業
山屋 真琳(養 護)上田東
塩原 美香(事務長)南信会計センター

【令和2年度転入】

藤澤 由夏(教 頭)飯田風越
湯野 寛隆(国 語)白馬
増田 八生(国 語)駒ヶ根工業

堀内 哲男(地 公)松本深志
丸山 良茂(地 公)大町岳陽
外山 道悠(地 公)新採用
宮島 正明(数 学)塩尻志学館
高林 邦之(数 学)松本美須ヶ丘
宮城 佳子(理 科)松本美須ヶ丘
塚田 雄二(保 体)丸子修学館
荻野 哲也(英 語)岡谷工・松本工
栗林ひろ子(英 語)茅野
長田 惠美(養 護)富士見
小口 稔(事務長)富士見

時代とともに— 記念手ぬぐいに見る歴史

諏訪二葉高校同窓会では、学校の節目に合わせて記念の手ぬぐいを制作してきました。現在、同窓会で保存している手ぬぐい手は、宮芳平生先生がデザインした学校創立50周年記念手ぬぐいをはじめ、創立70周年で旧校舎を版画調で表現した二木六徳先生のデザイン、さらに武者絵画家として知られる折井宏光先生の手による創立80周年のボタン絵などがあります。また、生徒会の最大のイベントである二葉祭の開催に合わせて作られた手ぬぐいなど、昔懐かしい記念手ぬぐいを誌上紹介します。

